

宮下所長の暮らしに役立つ医療のはなし

厄介な神経痛が残ることもある

たいじょうほうしん

带状疱疹の予防

「コロナワクチンをうつと带状疱疹になるって本当ですか？」

最近診察室でよくある質問です。当診でも確かに増えてますし、皮膚科の先生に聞いても増えているそうです。带状疱疹は免疫力が低下すると発症しやすくなります。高齢者に多いのも老化による免疫力の低下があるためです。またストレスが強くなると免疫力が低下するので発症しやすい。コロナ禍で思うように活動できない、マスクが煩わしいなど、今は何かとストレスが多いので「免疫力が下がったための带状疱疹発症増加」が妥当な答えでしょう。ワクチンが怖いけど仕方なくうった、なども立派なストレスですね。もちろんコロナワクチンの副作用の可能性は否定できません。インフルエンザワクチンや肝炎ワクチン接種後にも稀な副作用として带状疱疹発症が報告されていますから。

増えているもう一つの要因は2014年の水痘ワクチン定期接種化(1~2歳の子供がみんなうつようになった)です。带状疱疹の原因は水痘(みずぼうそう)ウイルスです。子供の時にかった水痘のウイルスが神経に住み着いていて、免疫が下がってきた時に皮膚に悪さをするのが带状疱疹なのですが、子育て世代は水痘になった子供からウイルスの暴露を受け、ブースター効果(ワクチンの追加接種のようなもの)で抗体量を再び上げていました。2014年以來、子供が水痘にならなくなった。それはいいことではあるのですが、子育て世代にとっては抗体価を上げるチャンスを失い、带状疱疹を発症しやすくなったのです。



带状疱疹が厄介なのは、神経痛が残ることがあるからです。もちろんなった当初も、寝られないほど痛みが強い場合があるのですが、治療が遅れると3ヶ月以上も痛みが続く带状疱疹後神経痛になることがあります。50歳以上で带状疱疹を発症した人のうち約20%が带状疱疹後神経痛になると報告されています。

幸いなことにワクチンが2種類あります。一つは子供にうつ水痘ワクチン。生ワクチンですが、これを50歳以上の大人がうつと、带状疱疹の発症を50%程度抑えることができます。ただ5年を超えると効果が少なくなってきます。料金は8500円くらい。

もう一つは最近コマーシャルでやっているシングリックスという不活化ワクチンです。50歳以上で97%、70歳以上で90%ととても高い発症予防効果ですが、値段も高く、1回2万円超で2ヶ月あけて2回うちます。何年後に再びうつかはまだデータがないのですが、現在までの9年間の追跡調査では効果が続いています。

どちらを選ぶかは財布との相談、ですが、他の病気があって生ワクチンがうてない人もいますので、相談してください。ちなみに宮下は昨年水痘生ワクチンをうちましたが、5年後にはシングリックスをうとうかな。かかって治療することになればそのお金もかかるし。いずれにしても早期発見、早期治療をするのが神経痛を残さないために重要です。皮膚がピリピリ痛むという症状や、写真のような赤いポツポツが出たらその日のうちに急いで医療機関へ(休日は救急病院へ)。

医療生協かながわの料金 2023.4.26

	組合員	未加入
水痘ワクチン1回	5,260円	8,470円
シングリックス1回	19,770円	26,070円

診療所たより 161号 2022年6月25日発行より